



10月1日 木曜日

茨城新聞社

赤水資料、重文に指定

官報告示 一橋徳川家資料も



長久保赤水の関係資料の重要文化財指定を祝い、高萩市庁舎外壁に掲示された懸垂幕

高萩市出身の学者で、日本で初めて経緯線のある全国地図を完成させた長久保赤水（1717～1801年）の関係資料（高萩市、同市歴史民俗資料館保管）が30日、国の重要文化財に指定された。同日付の官報で告示された。

重要文化財に指定されたのは地図・絵図84点、文書

・記録279点、典籍274点、書画・器物56点の計693点。国の文化審議会が3月に指定を答申。指定は当初、夏ごろの見通しだったが、新型コロナウイルスの影響で遅れていた。

同市の大部勝規市長は「指定により、赤水資料は国民的財産として位置付けられた。引き続き資料の保存、活用を図り、長久保赤水の名とその功績を全国に発信してまいりたい」とのコメントを発表した。

資料の収集・整理や赤水の功績を伝える活動を長年



JR高萩駅前ロータリーの記念横断幕

続けてきた、長久保赤水顕彰会の佐川春久会長は「会の先輩たちから活動を継承してきた。ようやく指定が実現し、感激している。これを機会に活動に弾みをつけていきたい」と喜んだ。市は同日までに、市庁舎外壁に指定を祝う懸垂幕を掲げた。同資料館では重要文化財指定を記念した特別展を8月から開催しており、1日には資料の一部を入れ替えて展示する。本県関係ではほかに、「一橋徳川家関係資料」（県、県立歴史館保管）も30日付で国の重要文化財に指定された。（小原瑛平）

赤水の手紙

（長男・藤八郎へ：續長久保赤水書簡集現代語訳から抜粋）

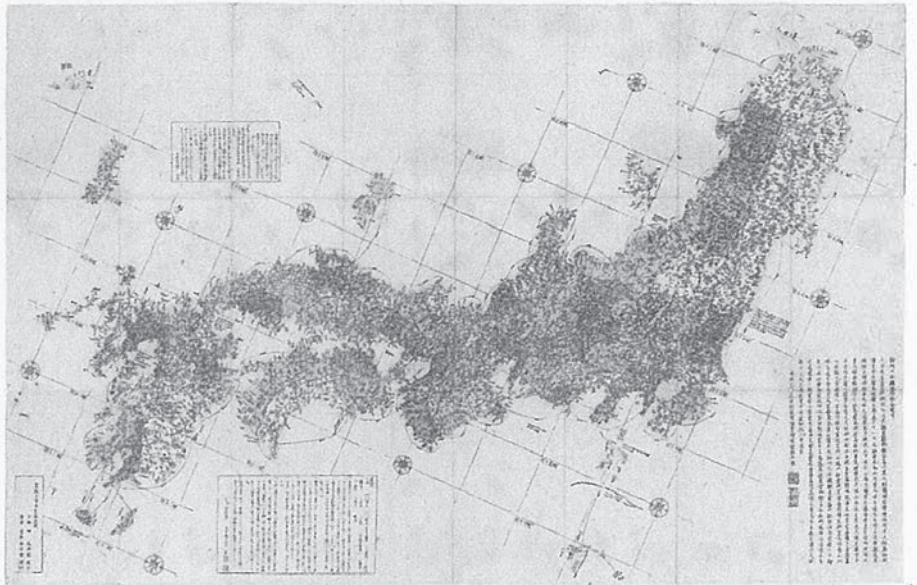
（前略）心の目の付け所が肝要なのである。すべからず書を読む時には、難しく疑念が生じたところは、不審帳へ書き出して置いて、その次のところを順々に読むのが良い。読んだ書物が多くなれば、後には前の疑問に思ったところも自然と理解できるようになるものである。これを大成の日という。常日頃から読書をおこなえば年が経つにつれて大成するものである。（略）大金を貯えもつことは大悪のもとになると思う。金が貯まったならば時々人に施してやることが上策である。



伊能忠敬より早い日本地図先駆者

長久保赤水 知名度じわり

茨城・高萩 高い精度、功績を評価



長久保赤水の「改正日本輿地路程全図」(高萩市教育委員会提供)

江戸時代の地理学者、長久保赤水(1717~1801年)が近年、知名度を上げている。初めて実測で日本地図を作った伊能忠敬より42年早く、情報収集による精度の高い「赤水図」を作り、庶民や後世の知識人に広めた功績が評価され始めた。

赤水は茨城県高萩市赤浜の農家生まれで、幼い頃に両親を亡くした。親族に育てられながら、学問に興味

を持ち、水戸藩の学者らの下で儒学や天文学、地理学を学んだ。30代半ばで正確な日本地図を作ろうと決意し、情報収集や各地の旅を経て、52歳で初めての地図を完成。功績が認められ水戸藩主の侍講になった。

赤水の地図は天文学を取り入れたことで、日本で初めて経線と緯線が書かれ、比較的正確なのが特徴。中でも1779年に初版が完成した「改正日本輿地路程全図」(通称・赤水図)は

の心が弛み、他の悪事に染まる故に、千万長者もいつとはなく衰えてしまうものだ。これをきちんと矯正して家を中興する事は、学問をした人でなければ出来ない。学問はうわべだけの華やかさを抑え、(虫損)学問や徳のある行いを専らにし、酒と色事と賭博などを極めて嫌う人でなければ、学問を成就することは難しいであろう。

豊富だ。長久保赤水顕彰会の佐川春久会長(70)は「友人が多く、旅人にもお茶をこちそうして話を聞くなど、情報収集能力にたけていた」と強調する。

赤水の関連資料693点は、2017年に県指定有形文化財になるなど再評価が進み、国の文化審議会は今年3月、同資料を国の重要文化財に指定するよう文部科学相に答申した。

さらに知名度を上げようと顕彰会は同月、赤水が地図に書き残した海上現象を元に、絵本「りゅうのひかり」を出版。縦約84センチ、横約128センチの赤水図のレプリカ発行を目指し、資金300万円をクラウドファンディングで募っている。

赤水の手紙

(長男・藤八郎へ：續長久保赤水書簡集現代語訳から抜粋)

(前略) 昼夜読書し、田畑へ出ても書物を離さず、荷運搬や鼻取り(田植え前の代掻きの際などに、竹竿で牛馬を誘導)をしながらも書物を読みながら仕事をし、五十年一日のように学問

に励み勤めて来て、君侯(殿様)の侍講をも勤める身になった。これもつまりは柴田平蔵兄(松岡七友(七賢人)の一人、柴田愿恭(東江)。平蔵は通称で二歳年上)の恩と教えによるものである。(略)学問というものは、道理法則を窮め、惑いを解き心を堅める菓なのだ。学問をしない人は心の要が弱く、日を追って成人するに従い、そ

の心が弛み、他の悪事に染まる故に、千万長者もいつとはなく衰えてしまうものだ。これをきちんと矯正して家を中興する事は、学問をした人でなければ出来ない。学問はうわべだけの華やかさを抑え、(虫損)学問や徳のある行いを専らにし、酒と色事と賭博などを極めて嫌う人でなければ、学問を成就することは難しいであろう。

動きは県外にも広がっており、吉田松陰ゆかりの松陰神社(山口県萩市)でもレプリカが展示される見通しだ。佐川さんは「世界で通用する、誇れる先人の一人。地理の歴史の中に赤水図をしっかりと位置付けた」と語り、将来的には大河ドラマ化も目指している。

20年以上かけ作成

地図への情熱

先駆者

長久保赤水「重文指定」

■上■

江戸時代の民の生活を支えた「ベストセラー」。高萩市出身で江戸時代の学者、長久保赤水（1717～1801年）は1779年、日本地図「改正日本輿地路程全図（赤水図）」を完成させた。国の文化審議会は3月19日、赤水の関係資料（同市歴史民俗資料館保管）を国指定の重要文化財（美術工芸品）に指定するよう萩生田光一文科科学相に答申。赤水に魅了され、顕彰活動を続ける関係者に話を聞きながら、赤水の業績と人物像に迫った。

▽「伊能図」より前

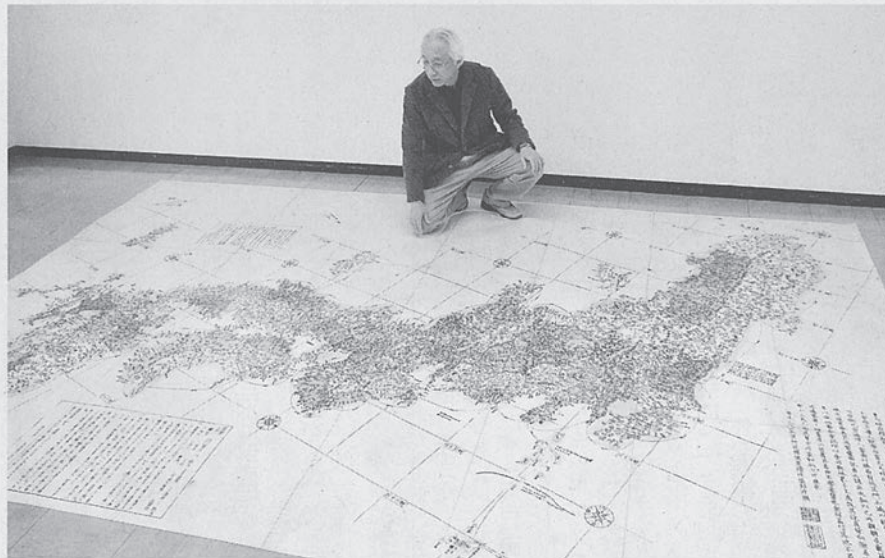
赤水図は実用性に富み、流業績で、赤水は地図作成の通に、旅にと民に愛用された。先駆者と言える。

地図作成で著名な伊能忠敬による「伊能図」よりも42年早



長久保赤水の自画像（高萩市教育委員会提供）

高い実用性、広く普及



赤水が地図を学び始めたのは35歳の頃。先人による地図や地誌、官製の国絵図など多くの資料を基に編集。自身の実体験や多くの旅人・知人からの話も参考に、20年以上の歳月をかけ赤水図を作成した。赤水図は129万6千分の

1の縮図で、10里（約40km）が1寸（約3cm）。大きさは縦84・6寸・横128・8寸。国境や関所、城下町、名所など10種類の記号が使われている。

日本地図としては初めて経緯線を用いられ、方角が正確に分かる。天文学の知識を取り入れた点も画期的とされる。赤水は初版発行後も情報収集と改訂を熱心に続けた。1791年発行の第2版では、初版で4200力所だった地

名を6千力所まで増やしている。

「赤水は、人に役立つものを作りたいという気持ちを持っていたのだらう」。長久保赤水顕彰会理事の三浦邦明さん（68）が語る。

▽面積は9倍

三浦さんは昨年、赤水図を3倍に拡大した地図を印刷会社に個人で発注して作り、同会に寄贈した。縦253寸、横3186寸となり、面積は9倍と圧巻だ。

赤水図は宿場のある地名や地形などが細かく記載されており、原寸では見づらいのが難点だった。

三浦さんは「3倍にしたことで文字が読みやすくなった。例えば自分の出身地の地名などを見られるので、赤水図に興味を持ってもらうことに役立つ」と目を細める。

3年前までは赤水について「ちらっと知っている程度だった」と三浦さん。深く知るうち、業績や育った環境に面白みを感じた。

赤水は幼くして家族を次々に亡くした。だが「継母は農民だから教育はいらない」との方針ではなく、本を読ませ医者の私塾に通わせた。良い教育によって赤水という名の「ロケット」がドンと打ち上がった。三浦さんは赤水の生涯をこう表現する。

原寸の3倍大の赤水図を見詰める三浦邦明さん（高萩市内）

赤水の手紙

（長男・藤八郎へ：續長久保赤水書簡集現代語訳から抜粋）

（前略）必ず必ず村役人などへ申し出て訴訟などにかかり合うのは以ての外である。ご公儀の権力を借りて貧しい人から益（金）を取ること、は、棄てるよりはるかに劣るということを得るべきである。（略）第一に子孫は誰によらず村役人などになりたいと思う心、或いは金儲けしたいという考え、こういうことが平常心の中に生じないように教育しなさい。ただ農業のみ励み、質素儉約を旨とし、余暇には学文（学問）に精進し楽しむことばかり心がけることが良いのである。

好奇心、学問究める

たゆまぬ努力

先駆者

長久保赤水「重文指定」

■中■

長久保赤水（1717〜1801年）は現在の高萩市赤浜の農家に生まれ、幼い頃から勉強好きだった。

「読書に夢中になるあまり、頼まれた家事を忘れてしまうことがあったらしい」。赤水の研究を長年続けてきた赤水頭彰会顧問の長久保源蔵さん（89）が語る。



漫画「長久保赤水の生涯」で、赤水が東北を旅した際の記録「東奥紀行」の内容を表したページ

藩主に制度改善「直訴」も

もとは儒学を深く学んだが「好奇心で手を広げていった結果、天文や地理が肌合っていたのかな」（源蔵さん）と、地図作成の道に進んだ。

▽「農民疾苦」

61歳の頃、赤水は水戸藩6代藩主徳川治保に学問を教える侍講に抜てきされた。赤水を推挙した郡奉行、皆川教純



新しい伝記漫画の発行に向け作業する黒沢貴子さん＝高萩市内

「いち農民学者が御殿に上るのは有史以来初めてのこと」と述べたという。

赤水は政治にも明るかった。1778年、治保公に対し、「農民疾苦」という書を

▽漫画で伝記

高萩市の主婦、黒沢貴子さん（53）は2017年、赤水頭彰会の事業として伝記漫画を描いた。柔らかな絵柄と、化け猫を物語のナビゲーターとして登場させるなどの工夫で赤水の生涯を分かりやすく描いた。

資料を読み込み、かみ砕いて漫画として表現する作業の中、赤水の人生は「ドラマチックで、成功のプロセスを踏んでいる」と感じた。11歳で父を亡くし、生きていくため「変わらざるを得なくなっ

た」。地図作成では多くの人の助けを得た。そうした出来事が赤水の力になったと想像する。

漫画家を目指した時期があったが簡単な道ではなく、挫折を経験。赤水と自身を比べたとき「私は漫画を描きたいと思っても、誰かの役に立つと思ったことはなかった」。伝記漫画を読んだ人から「赤水のことがよく分かりました」と言われることで、役に立てたのだと感ぜられた。赤水との出会いが、自信と喜びにつながった。切り口を変えた漫画を来年新たに発行するため、再び構想を練っている。

れたわけでもなく頑張ったのは偉い」と評する。

赤水の手紙

（長男・藤八郎へ）
：續長久保赤水書簡集現代語訳から抜粋）

（前略）たくさん菊漬を食べて寿命を延ばそうと思っ
ている（赤水は『地理志』成就のために長寿を願って菊漬を愛用した）。（略）学問のない者は百歳を経ても生きた甲斐はない。（略）だから君子（学識のある人格者）は生涯学問を怠らぬ人なのだ。それゆえ天の助けもあるのだ。私は自分自身に経験があるからこういうのだ。



知名度向上へ奔走

郷土の誇り

先駆者

長久保赤水「重文指定」

■下■

「赤水先生の業績をなんと学相に答申。夏ごろまでに指
定される。1992年に設立
した、赤水の功績を伝える活動
に取組んできた長久保赤水
日、長久保赤水の関係資料を
国の重要文化財（重文）に指
定するよう萩生田光一文部科
喜ぶ。



「長久保赤水記念館」として活用する構想がある屋敷。高萩市赤浜

講演や銅像、陶板建立も



長久保赤水の功績を後世に伝えるため活動を展開する佐川春久さん＝JR高萩駅前

「すいいことをやったのに赤水はあまり世に知られていない。非常にもったいない」との思いを強く持つ。2012年に会長に就任して以来、赤水の知名度向上のためさまざまな事業の実現に奔走し続けてきた。

伝記漫画や書簡集などの発行、赤水図のレプリカ作成、ゆかりの地を巡るウォーキング

赤水の墓は潮騒が聞こえる海沿いの林の中に立つ。同委員会では2012年、JR高萩駅前の広場に赤水の銅像と赤水図の陶板を建立した。子孫から「現在使っていない屋敷を赤水のPRに活用してほしい」との打診があったため、今後、市と調整しながら「赤水記念館」として改修していく構想もある。

▽地域資源に

赤水一族の一部の子孫は今も高萩市に暮らすほか、赤水関連の史跡や施設が市内に点在する。

▽後世へ伝える

重文指定で「国民の財産になった」（佐川会長）ことを好機とし、同会は今後も積極的に事業を展開していく。

幕末の思想家、吉田松陰も赤水図を重宝したと考えられることから、松陰が東北での旅について書き記した「東北遊日記」の足跡を記載した赤水図のレプリカを制作する予定。現在、インターネットで資金を募るクラウドファンディングで支援を求めている。

佐川会長は、市内の小学生がテレビ番組のインタビューで「赤水は街の誇りです」と答えていた姿がうれしく、印象に残っている。

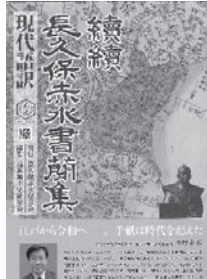
「茨城が生んだ世界に誇れる先人の一人」。赤水の功績、そして努力を惜しまず人のために働いた生き様を永く後世に伝えていくため、佐川会長と同委員会たちの活動は続く。

（この連載は目立支社・小原瑛平が担当しました）

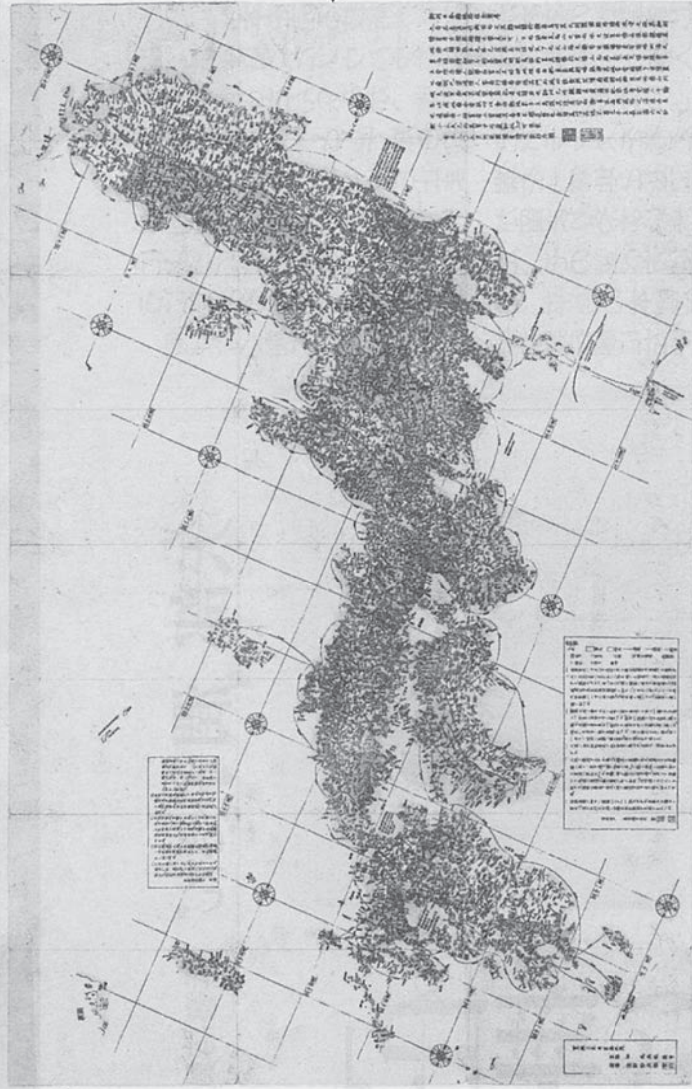
赤水の手紙

（長男藤八郎、次男・四郎次、孫の作之丞【藤八郎の長男】へ：
現代語訳から抜粋）

（前略）書を読むことは、名人たちの口頭での教えを受けるのと同じである。隙さへあれば気を許さず励むよう。書を買求める金銭を惜しんではいけない。



江戸時代の地理学者、長久保赤水の「改正日本輿地路程全図」＝高萩市教育委員会提供



茨城県高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水（一七七一―一八〇一年）が近年、知名度を上げている。初めて実測で日本地図を作った伊能忠敬より四十二年早く、情報収集による精度の高い「赤水図」を作り、庶民や後世の知識人に広めた功績が評価され始めた。

伊能より42年早く

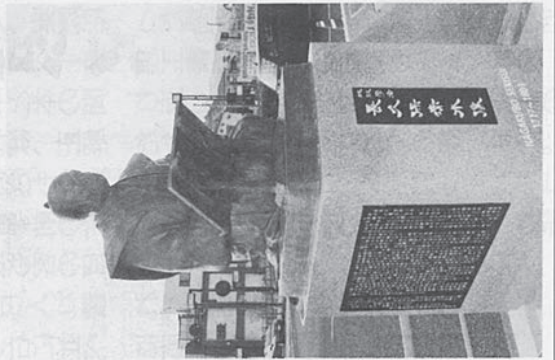
赤水は高萩市赤浜の農家生まれで、幼い頃に両親を亡くした。親族に育てられながら、学問に興味を持ち、水戸藩の学者らの下で儒学や天文学、地理学を学んだ。三十代半ばで正確な日本地図を作ろうと決意し、情報収集や各地の旅を経て、五十一歳で初めての地図を完成。功績が認められ水戸藩主の侍講になった。

赤水の地図は天文学を取り入れたことで、日本で初めて緯線と緯線が書かれ、比較的正確なのが特徴。中でも一七七九年に初版が完成した「改正日本輿地路程全図」（通称・赤水図）は実用性が高く、江戸時代の庶民に広く流通した。

幕末の志士を育てた吉田松陰（一八一〇―一五九九年）が兄に宛てた手紙には「これが無くては不自由」と、赤水図を旅に役立つアイテムとして記されている。

この地図 → 作ったのだから？

↑高萩駅にある長久保赤水の像。茨城県高萩市で



一八二二年に完成した伊能忠敬の地図は、伊能自らが実際に各地を歩き歩幅で測量したことで有名。一方で赤水は、自分で集めた地名などの情報を地図に盛り込んだため、内陸の情報も豊富だ。長久保赤水顕彰会の佐川春久会長（右）は「友人が多く、旅人にもお茶を立ち寄りして話を聞くなど、情報収集能力にたけていた」と強調する。

赤水の関連資料六百九十三点は、二〇一七年に県指定有形文化財になるなど徐々に価値を評価され、国の文化審議会は今年三月、同資料を国の重要文化財に指定するよう文部科学相に答申した。

地元顕彰会がPR

さらに知名度を上げようと顕彰会は同月、赤水が地図に書き残した不思議な海上現象を元にした絵本「りゅうのひかり」を出版。縦約八十四センチ、横約百二十八センチの赤水図のレプリカ発行を目指し、資金三百万円をクラウドファンディングで募る。

動きは県外にも広がり、今後、吉田松陰ゆかりの松陰神社（山口県萩市）でもレプリカが展示される見通しだ。佐川さんは「世界で通用する、誇れる先人の一人。地理の歴史の中に赤水図をしっかりと位置付けたい」と語り、将来的には大河ドラマ化も目指している。

長久保赤水 知名度じわり

インタビュー連載 ④

今、気になる人に会いに行く。

日本地図学会会員
長久保赤水顕彰会会長
佐川 春久 さん

経緯線や主要街道が書き込まれた地図「赤水図」は、
吉田松陰も愛用した幕末のベストセラー。
長久保赤水の偉業を次の世代に伝えたい。



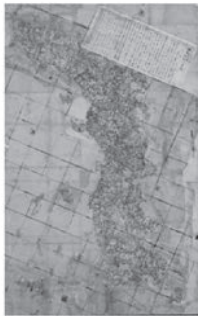
プロフィール●

1949年、東京都築地生まれ。高萩市役所に38年間勤務し、2010年に定年退職。
その後、高萩市歴史民俗資料館館長などを経て、現在は高萩市教育委員会生涯学習課の任用職員。長久保赤水顕彰会会長、戸沢政盛公顕彰会会長、高萩郷土史研究会の事務局を務めている。長久保赤水図のレプリカ、絵本「りゅうのひかり」を発行してきた。

高萩市出身の儒学者・長久保赤
水は、日本で初めて経緯線のある
全国地図を完成させた人物であ
る。彼に関する資料693点が、
この3月、国の重要文化財に指定
されることが決定した。

教科書で目にする伊能忠敬の地
図は、江戸幕府の秘図であったの
で、実際に庶民が見ていた日本地
図は「赤水図」だったんです。「伊
能図」は測量図で、「赤水図」は編
集図。第五版まで出ており、地図の
中に多くの情報が入っています。

原寸大のレプリカを手にした



▲「改訂日本分里図」。「改正日本輿地路程全図」の原図となった、経緯線の入った初めての日本地図。脱紙や胡粉による修正が多くあり、期間をかけて作成したことがわかる。



▲「赤水図」と呼ばれる「改正日本輿地路程全図」第二版のレプリカを発行。江戸時代と同じデザインのものし表紙に入れている(1,000円)。



▲「赤水図」の中に残された「願井嶽(あかいだけ)のひかり」をもとに絵本「りゅうのひかり」制作。



▲JR高萩駅前には、長久保赤水の銅像と、地図が設置されている。

「長久保赤水顕彰会」
TEL.090-1846-6849 (佐川)
※吉田松陰の「東北遊日記」の足跡を辿れる赤水図レプリカ発行のため、クラウドファンディングで寄付金募集中。
赤水図 キャンプアップイヤー

🔍 検索

が、詳細な記述に驚かされる。

赤水は多くの資料を研究し、経緯度という天文学を学び、旅人や修験僧の話を参考にして地図を完成させています。国境や名所旧跡だけでなく、港からの距離や主要街道、河川など情報量が多く、物流や経済活動に使われていたと思われま

それだけの偉業を成し遂げた人物でありながら、全国だけでなく地元でも知らない人は少なくない。

赤水は、農業をしながら勉学に

励み、その功績を認められ61歳で水戸藩主の侍講(学問の師)に取り立てられた人物です。彼が残した資料、そして郷土を研究してきた先生方の資料を次の世代に伝えるため、1992年に「長久保赤水顕彰会」を発足しました。

国の重要文化財指定記念誌として絵本を発行するなど、顕彰会の活動はとても活発である。

これまでに、レプリカ制作をはじめ、漫画や切手などを発行し、赤水の偉業を伝えてきました。念願叶って国の指定がいただけまし

たが、人河ドラマ、教科書への掲載、記念館の開館など、さらなる目標に向けて顕彰会では会員を募集しています。

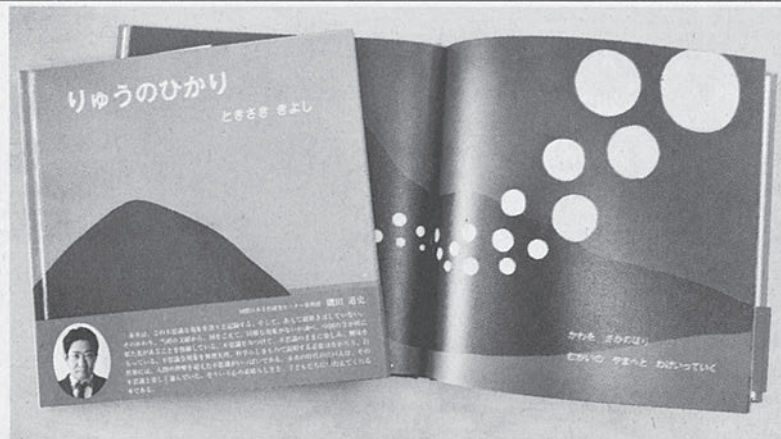
佐川さんが、そこまで顕彰会の活動に力を入れるのはなぜ？

実は私の出身地は東京でして、結婚して高萩市に移りました。外国の人だからこそ気づく、地元の魅力があるのだと思います。今は、お年寄りから地域の歴史の話を聞くことが少なくなりましたが、子供たちに赤水をはじめ偉大な先人のことを伝えたいと考えています。

赤水顕彰会が絵本発行

資料の重文指定決定記念

高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水(1717~1801年)の功績を伝える長久保赤水顕彰会(佐川春久会長)は、赤水が地図上に書き残した海の不思議な現象の記述を基に、絵本「りゅうのひかり」を発行した。光る玉が海で生まれ竜の姿へと変わり、やがて林の中で滴になって消える様子を幻想的に描いている。顕彰会は、赤水関係資料の国重要文化財への指定決定を受け、記念事業として製作した。



長久保赤水顕彰会が発行した絵本「りゅうのひかり」

高萩 海の不思議、幻想的に

赤水は「改正日本輿地路程全図(赤水図)」の第2版(1791年)で、現在の福島県いわき市四倉沖の箇所に「関伽井嶽の龍燈」と呼ばれる現象について記した。四倉沖の海で毎晩、かがり火ほどの大きさの火が発生、川をさかのぼり関伽井嶽の麓に達し、林の中に消える。現象は夜の始めから翌日の日の出まで途切れることなく続き、関伽井嶽からしか見ることができない」という内容だ。絵本は、同会会員の時崎清(ペンネームときさきよし)さん(69)＝高萩市島名＝が、現象についての記述からイメージを浮かべ起草した。赤水図は地形と地名が詳

細に書かれている地図だが、四倉沖のほか九州の福岡県沖や有明海にも不思議な現象についての記載がある。佐川会長は「赤水は世の中の不思議なことを地図に残したいという気持ちがあったのではないか。(絵本から)真摯な学問の姿勢を知ってほしい」と話す。時崎さんは、不思議なことを全て科学的に説明しようとするのではなく「自然に耳を澄ませ、そのまま受

け止める大切さを感じてもらえれば」と語った。儒学や天文学、地理学などを学んだ赤水は1779年に赤水図の初版を完成。正確な地形と豊富な地名を記載し、庶民に広く普及した。国の文化審議会は3月、赤水の関係資料を国指定の重要文化財(美術工芸品)にするよう萩生田光一文部科学相に答申。夏ごろまでに答申通り指定される。(小原瑛平)



「改正日本輿地路程全図」2版

赤水の手紙

(長男・藤八郎へ：續長久保赤水書簡集現代語訳から抜粋)

(前略) 殊に来年の正月ついたち(注1天明六年(一七八六)正月元旦)には、日食がある。一日の朝の日食は昔から現在まで調べてみると、凶作か、戦乱(乱世)か、とにかく変わった事が起こる可能性があるという。用心するように。(略) 大凶年になって餓死する人が出るような時は金を持っていても人を救うことは出来ない。ただ穀物だけが人を救うことが出来るので、金を貯える事を考えず、穀物を備蓄するように今年は心がけよ。来年の正月(虫損)以降は、大変になると懸念される。

注1天明六年【この年、赤水の予言の通り、高萩地方では、五月から雨が降り続き冷気。七月十二日から十八日までの昼夜、間断なく大雨が降り、大洪水が起こった。この大凶作のため、関東地方や東北地方だけでなく日本中の農村も大きな被害にあい荒廃している。】



赤水さん

地図に広がる
いきいき人生

1目覚め

これから長久保赤水（以後、赤水さんと呼びます）のことを書きます。と言っ
てもけげんに思う人もある
かもしれませんので、長久
保家の一族で、「地政学者
長久保赤水伝」（暁印書
館）などの著書も多い長久
保片雲（本名・源蔵）さん
（89）＝高秋市＝に語って
もらいます。

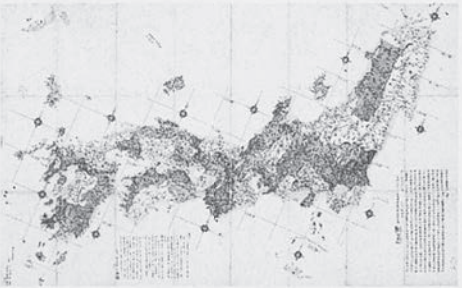
「彼は通称を源五兵衛と
いい、農民の長男として今
の高秋市赤浜で生まれ、35
歳ごろから日本地図を作り
始めた人なんです。彼が作
った地図は、当時としては
もっとも信頼され、ひとつ
とに愛用されたんですね」
農民の子ながら、ひとつ
とに愛用される日本地図を
作った人が茨城県にいたな
んで、赤水さんってどんな
生い立ちなのか、とつても
気になります。

西暦で言えば江戸時代中
期の1717（享保2）年
11月、当時の常陸国赤浜村
で生まれます。彼は虚弱児
だったらしく、早くも医師
からこう告げられたとい
うんです。「この子は40歳ま
で生きられないだろう」
と。ところが実際は数えで
85歳という長寿を全うされ
たんですね。けれど、不運
な少年時代を過ごします。

父母他界 不運な少年時代

8歳のとき弟を亡くしま
す。翌年に母のおしげが亡
くなり、その2年後、今度
は父の善次衛門が亡くなり
ます。彼は11歳で肉親を失
ってしまわんです。

特に母の死は彼にとつて
大きな衝撃だったに違いあ
りません。と言うのは、母
から文字の読み書きを教え
られたことで彼の知的欲求
は芽生えたからです。当時
は紙も貴重品。なので母は



伊能忠敬の地図より42年も早
い1779年に完成した「改
正日本輿地路程全図（初版）」
＝高秋市歴史民俗資料館蔵



晩年の長久保赤水
を描いた肖像画＝
県立図書館蔵

丸いお盆に載せた白い砂に
指で文字を書き、我が子に
伝えたのです。赤水さんも
ひとつ覚えると次が知りた
くなり、好奇心をどんどん
深めていくのでした。

「なにしろ夕立がきても
庭に干した麦を取り込むこ
とを忘れるほど読書に夢中
だったので、父親にこっぴ
どく怒られたぐらいなん
ですよ」（片雲さん）

もっとも生家は庄屋でし
たから村政に携わる関係
上、読み・書き・そろばん
がでなければ務まりませ
ん。けれど母の死で文字を
覚える手立てを失います。
ここで彼を救い、後々まで
支えたのが継母のおかんで
した。

父の善次衛門は妻を亡く
した翌年、おかんと再婚し
ます。しかし、その1年
後、今度は善次衛門が亡く
なります。おかんは実父か
ら「離縁して実家に戻れ」
と告げられます。おかんが
これに従えば、赤水さんは

まったくの孤独。けれどお
かんは勇敢でした。実父の
言葉をきっぱりと拒否した
のです。幼い赤水さんを残
して実家に戻るといって、そ
んな薄情にはなれなかった
のです。以来亡くなるまで
の約25年間、おかんは赤水
さんとともに暮らします。
（フリーライター・岡村青）

この人物の生涯を岡村青さんがゆかり
の人や土地を訪ねて紹介します。岡村さ
んは真壁町（現桜川市）生まれで、「血
盟団事件 井上日召の生涯」（三一書
房）や「十九歳 テロルの季節」（現代
書館）など著書多数。

連載は原則木曜日に掲載します。

伊能忠敬（1745～1818）が全国を測量
して作製した「大日本沿海輿地全図」よ
り42年も早く、農民出身の長久保赤水
（1717～1801）は、収集した様々な地図
と旅人らの情報を元に、当時としては最
も信頼性が高く、利便性に優れた「改正
日本輿地路程全図」を完成させます。

赤水の手紙

（次男・四郎次へ：續長久保
赤水書簡集現代語訳から抜
粋）

（前略）なお、老人（赤水）
の食事は、第一に菊を賞味す
ることである。去年から菊の
花が不足している。藤八郎か
らも大分送られて来るが、欲
を言えばまだ不足している。
今年の秋はどのようになるの
か。去年の花のように少なく
では残念である。藤八一家だ
けでは間に合い兼ねると思
うので、隣近所、知り合いの所
へも少しずつ頼んでもらい集
め、たくさんもらいたい。毎
日の食事に砂糖漬け、味噌漬
けなどにもいろいろ調理して
食べたい。第一に目の薬にす
るので、長命を願うものでは
ない。死ぬまで眼の力の助け
になる薬味なので欲しいので
ある。川尻のお竹（赤水の娘。
川尻村（現日立市）の丹藤左
衛門貞雄へ嫁す）にもついで
に話してくれれば、鮑の腸の
塩漬（塩辛）を時々少しづ
つ、ついでに贈ってくれるよ
うにしてほしい。これも私の
薬味にしたいものだ。

赤水さん 地図に広がる いきいき人生

2 継母

江戸時代中期の1779(安永8)年、数え63歳のとき、日本で初めて緯線と方角線の入った全国地図「改正日本輿地路程全図」を作製した常陸国赤浜村(現高萩市赤浜)の長久保赤水さん(1717〜1801)。生家は水戸とみちのく仙台を結ぶ街道に面していました。地元では「奥州道」と呼んでいたように、生家前は往来する旅人が絶えませんでした。

「ここが赤水の誕生地です。けど彼がここにいたのは8歳まで。その後、彼の父が分家するからです」

高萩市赤浜の長久保総本家の跡地に立つ「長久保赤水誕生地」と深く刻まれた石碑の前で、一族の長久保片雲(本名・源蔵)さん(89)はこう説明してくれました。現在ここには片雲さんが住んでいます。

片雲さんに車に乗ってもらい、旧街道を歩いて赤水さんが暮らした分家に向かいました。「赤水はこの道を何度も往復したし、後に日本地図を作った伊能忠敬

肝っ玉おかんあつての「偉業」

も、東北旅行に向かった吉田松陰も歩いたものです」

途中、赤水さんの墓があり、参拝。黒ずんだ赤水さんの墓石の右に父の善次衛門、母おしげ、継母おかの墓が並んでいました。赤水さんの旧宅まで車で5分。こちらも旧街道沿い



赤水旧宅の門の一つ。旧街道に面している



長久保赤水の誕生地を紹介する長久保片雲さん＝いずれも高萩市赤浜

です。いまの国道6号と交わる北茨城市との境付近。赤水さんが測量をせずに詳しい日本地図を作製できたのは、家の前を行く旅人ら呼び止めて地名や地形の話を聞いていたからなんですよね。そしてここは両親亡きあと、赤水さんが継母のおかんとともに農業、学問に励んだ場所です。

善次衛門と再婚したおかんは1年たらずで寡婦となり、実父から実家に戻れと迫られます。けれど、夫の遺言を守るのです。善次衛門はおかさんを病床に呼んで伝えます。「私がいなくなればこの子は孤児になる。おまえが腹を痛めた子では

ないので頼むのは心苦しいが、これから先も面倒を見てもらえまいか」と。

おかんは遺言を受け止め、赤水さんを無事に育てることを心に誓います。雇っていた農民夫婦とともに田畑を切り盛りします。

赤水さんにとってなによりも心強かったのは学問に打ち込むことを理解してくれ、温かく見守ってくれたことです。長久保本家のおじが「本を読みながら農業をやるとは何事だ。農民のせがれに学問は無用だ」と赤水さんをたしなめたのに対し、おかんは「ひとつは誰でも道楽のひとつやふたつはあるもんで、ぼくちや酒飲みなんかより文章を学ぶほうがいいにきまってましょ」とかばうのでした。

おかんは赤水さんが14歳のとき下手綱村(現高萩市下手綱)の医師、鈴木玄淳が開く私塾に通わせます。赤水さんは他の塾生と切磋琢磨して、次第に才能を開花させていくのです。

(フリーライター・岡村青)

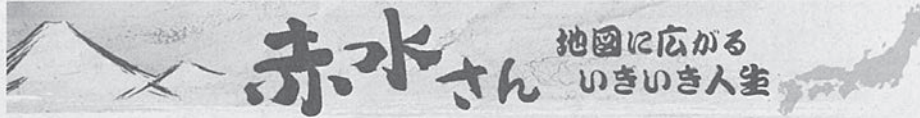
＝原則木曜の掲載です

赤水の手紙

(孫の作之丞【藤八郎の長男】へ：續長久保赤水書簡集現代語訳から抜粋)

(前略) 少しでも隙があつたならば昼夜ともに読書を怠つてはならない。(略) 書物に向かった時には、祖父(赤水)の顔を見るのと同様に心得怠けてはならない。





3 きっかけ

数え14歳から通った常陸国下手綱村(現高萩市下手綱)の私塾でめきめきと才能を伸ばした長久保赤水さん(1717~1801)は32歳の頃、奥州いわき(いまの福島県)の寺に招かれます。「論語古訓」の講義を頼まれるんです。

「この頃だと思っんですよ。途中で道に迷ったりして、地図の必要性を痛感したんじゃないかなあ」

江戸中期から明治にかけてベストセラーとなった日本地図「改正日本輿地路程全図」(通称赤水図)を63歳で作りに上げた赤水さん。一族の長久保片雲(本名・源蔵)さん(89)＝高萩市＝に「なぜ地図作りに目覚めたのでしょうか?」と尋ねたところ、返ってきた答えがこれでした。赤水さんは35歳の頃から、地図を書き始めたといわれています。

でも、赤水図を見ると本当に道に迷ったんじゃないかと思わされます。街道、河川、宿場、名所・旧跡などが詳細に書き込まれています。だから発売されるとたちまち評判となり、旅行

道迷い着想? サービス精神満載



①綿引正義さん方に伝わる「赤水図」
②「赤水図」を所有する綿引さん。見ているのはレプリカ=いずれも石岡市

に、ビジネスにと愛用されるんです。

その地図がなんと、石岡市の綿引正義さん(73)方に伝わっています。歴史の重みを感じます。でもなぜ綿引家にあるのでしょうか。

「5代前の政八郎のものではないかと想像しています。うちは私で28代目ですが、江戸時代末ごろまで松本屋という旅館を営んでいました。政八郎は信心深い人で、全国の神社仏閣に参拝するためによく旅行していたので、この地図を頼りに歩いていたらと思うんです」

赤水図がベストセラーになった理由は、誰もが自由に購入できたという点にあるんです。ここが伊能忠敬(1745~1818)の「伊能図(大日本沿海輿地全図)」とは大きく違います。忠敬は当初こそ自費で地図作製に取り組むのですが、やがて幕府のお墨付きを得て、資金、人材、物資などの援助を受けて全国を測量します。そのため完成した地図は幕府所有の「マール秘」扱いでした。

綿引さんは語ります。「(赤水の)地図は折り畳み式でしたが劣化がひどくなったので、祖父が表具師に頼んで掛け軸にしたんです。骨董屋も売ってくれますが、手放すつもりはないですね。家宝です」

精度の高さに加えて、折り畳み式である点も赤水図の画期的なところ。「ハンディータイプ」なのです。赤水さんって頑固な面もあったようですが、地図を買ってもらうためにはあれこれ工夫する。初版をバージョンアップさせた2版では浅間山や阿蘇山に煙を立ち上らせ、那智の滝も描き入れたんですよ。サービス精神が旺盛で、着想もユニークなエンターテイナーだったと思うんですね。

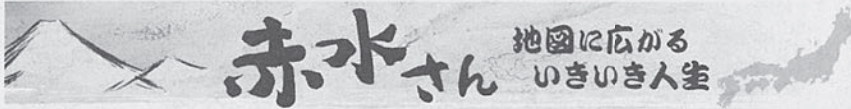
次回は再び、地図作りに目覚める前の20代の赤水さんに話を戻します。

＝フリーライター・岡村青(あおむら)＝
＝原則木曜の掲載です

赤水の手紙

(長男・藤八郎へ)
：續長久保赤水書簡集現代語訳から抜粋)

(前略) 殿様は年貢の上がりが悪く手元不如意(意の如くならず経済的に苦しいこと。思い通りにならないこと)のためお借り上げ(藩が一般から金を先借りすること)という新法を定められた。でもこれは一時的なこと、たかだか三年か五年の内に元のようになされるであろう。(略) 当節(とうせつ)のお借り上げなどは予定外の事である。これらの事は赤水が政策をさし上げたのでこのようになったご政務(せいむ)なのである。将来(しょうらい)うまくいくように愚案(ぐあん)したものである。

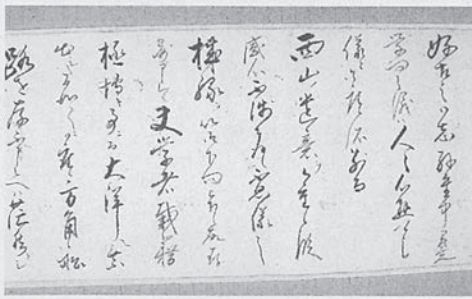


④よき師よき友

江戸時代のベストセラーとなる日本地図「改正日本輿地路程全図」（赤水図）を世に送り出すほどの大仕事をやる人はやはり、よき師、よき友に恵まれるんですね。長久保赤水さん（1717～1801）を見るにつくづくそう思います。

20代の赤水さんはまだ、地図作りに目覚める前です。農作業の傍ら、常陸国赤浜村（現高萩市赤浜）から下手綱村（現同市下手綱）の医師鈴木玄淳の私塾に通い、仲間と詩文、漢文などに励みます。

一方、さらに知識を深めるために水戸藩の儒者名越南溪に封書を送ると、返事



恩師の名越南溪から「（学問は）人生の半分以上はかかる仕事」と手ほどきを受けた手紙。高萩市歴史民俗資料館蔵

大学者から返事が来ちゃった

が来ちゃったんですね。赤水さんは小躍りして喜んでに違いありません。何しろ南溪は当代きっての大学者。若い頃は林家の私塾（昌平坂学問所の前身）で塾頭、後に彰考館の総裁を務めることになる人なんですから。

返書には学問をこころざ

す者の心構えが説いてありました。四書五経、漢書、後漢書など中国の史書の熟読をすすめ、「結局、学問は心がけ次第。（修めるには）人生の半分以上はかかる仕事です」と諭し、最後に「書では言い尽くせませんので、お会いしてお話ししましょう」と結ぶのです（長久保赤水頭彰会発行



鈴木家の墓を管理する渡辺文昭さんと律子さん。大きい墓が玄淳、小さい墓は玄淳の妻、阿清（おきよ）＝高萩市下手綱

『現代語訳 長久保赤水書簡集』から）。

南溪は現在の福岡県生まれの九州男児。酒豪で些事にこだわらず、服装も気にしないことから「ボロ十蔵」（十蔵は通称）と陰口をたたかれたほどの豪傑。赤水さん、20代半ばで南溪に入門します。

鈴木玄淳の私塾も忘れられませんが、玄淳と赤水さんら門人はみな優秀で、地名から「松岡七賢人」とたたえられるほどでした。特に柴田平蔵とは馬が合い、よき友でライバルの平蔵が亡くなった時は、弔辞で6回も「嗚呼哀哉」と嘆いたほどだったんですね。そんな賢人たちを育てた

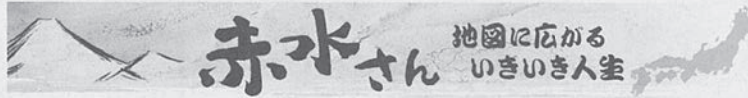
玄淳のお墓は、高萩市下手綱の「いわん坂」途中の高台にあります。管理しているのは渡辺文昭さん（75）と律子さん（67）のご夫婦。春と秋の彼岸と夏のお盆には墓を洗い、草を抜き、花と線香を手向けています。

「嫁に来た時には誰のお墓か分からなくてね」と律子さん。文昭さんも「おやじが大切に墓守をしてたんだけど、亡くなる前に、渡辺家との関係を詳しく聞きそびれてしまったんだ」と少々、照れた様子です。ではここで再び、長久保家の一族で赤水さんに詳しい長久保片雲（本名・源蔵）さん（89）にご登壇いただく……。

「玄淳先生の私塾は渡辺さんちの敷地内にあったとみられるんです。渡辺さんの先祖は、能筆で知られたまな弟子ですよ」赤水さんは数え23歳で、またいとこのお順を妻にめとります。25歳で長男、27歳で次男が生まれ、学問も家庭生活もますます充実した時期なのです。赤水さんはいよいよ、地図作りに踏み出します。（フリーライター・岡村青）

赤水の手紙
（長男・藤八郎へ：續長久保赤水書簡集現代語訳から抜粋）
（前略）殿様や大炊頭様（目白公）、中山殿（治保の弟。水戸藩附家老中山備前守信敬）などより時々政治についてご質問がある。私の考えをお用いになられることもあり、即ち天理にかなった事もあるのだらうと思う。これもまた当然のことです。有り難いことだと思っている。大能の野駒（大能村牧場の放し駒）の問題は解決した。この上ともに同じような事が出来れば本望である。例えば、子育ての事（奨励金）。御蔵前での貢納する事（蔵前でのモミ改めなど問題があった）。大豆にかける税金の事。贅沢を禁ずる事。賭博に罰金を払わせる事。寺社からの納入金を止める事。町人から金を借りる事は、無用の事。紙幣（藩札発行）はよろしくない事。いろいろな税金はとらないようにする事。右のことがらは皆、私のたてた政策である。これらの事についてみても、私が江戸に居ることは天命と思っている。だからこのまま江戸の土になろうとも天意（自然の道理）に任せようと思う。意見は無用である。

5世界は広い!



お待たせしました。「赤水さん」は今週から再開します。話は常陸国赤浜村(現高萩市赤浜)の長久保赤水(1717~1801)さんが数え35歳の頃、いよいよ地図作りに着手するところからです。通称「赤水図」と呼ばれる「改正日本輿地路程全図」の完成は63歳。実に約30年をかけた大仕事の始まりです。その姿は真面目一本だっただけです。一族の長久保片雲(本名・源蔵)さん(89)「高萩市」が語ります。「とにかく謹厳実直なひとでした。一日の計は鶏鳴に在り、一月の計は朔旦(一日)に在り」。赤水は、鶏の鳴く声と同時に起床せよ、なければ夕刻に後悔する、という言葉をいまいしめにしていましたから。自宅前の街道を往来する旅人を呼び止めては土地の名前や街道を聞き、入門した名越南溪のつて(?)で彰考館秘蔵の諸藩発行の地図も模写。天文学の知識も身につけました。

勉強に使った「天経或問」という中国の書物が残っています。ページの端には赤水さんの書き込み。地球とみられる円に「赤道」「緯度」「経度即東西」などと書いてあるんです。

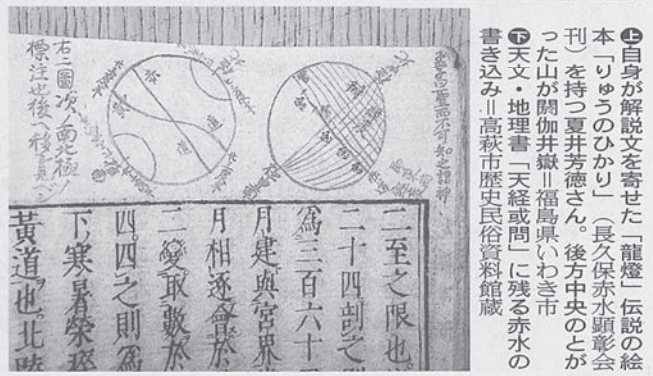
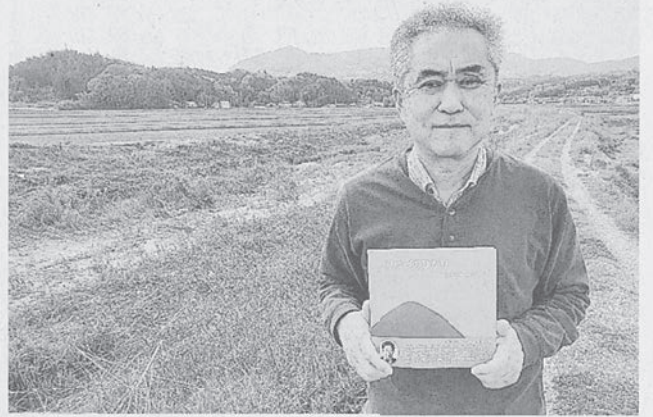
地図は、障子に描き込んでいきました。タテヨコの格子を緯度経度に見立てた

好奇心むずむず 異人と「違法」交流

という寸法です。障子が日本地図に早変わり。さぞかし妻のお腹はア然としたに違いありません。

でも、単に想像で地図を描いたわけではありません。实地検証もしています。44歳の夏、仲間7人で東北、新潟を旅します。彼は磁石を持参し、方位を調べているんです。

福島県の「いわき市暮らしの伝承郷」の夏井芳徳館長(60)が教えてくれました。「この旅では赤水の意外な一面が垣間見えます。茨城と福島の県境に近い勿来の切り通しを抜けると、『中は暗く、崖も崩れそうなので怖くなり急ぎ通り過ぎた』とか、『馬を見に行ったらハエとアブの大



群にへきえきした」とか。あの真面目な赤水さんが、28歳の頃には福島沖に出

自身が解説文を寄せた「龍燈」伝説の絵本「りゅうのひかり」(長久保赤水頭彰会刊)を持つ夏井芳徳さん。後方中央のところが山が関ヶ原井嶽(福島県いわき市)天文・地理書「天経或問」に残る赤水の書き込み「高萩市歴史民俗資料館蔵」

二至之限也
二十四刻之
爲三百六十
月建與宮界
月相逐會於
二變取數於
四四之則爲
下寒暑榮
黃道也北

長久保赤水と関ヶ原の龍燈

夏井芳徳さん(医療創生大学客員教授)(前略)赤水が旅をし、書き残してくれた記述によって、私たちはかつての地域の人々の営みや地域の様子などをつぶさに知ることができ、また、それを足掛かりにして、地域の歴史をさらに深く研究することが可能になる。とてもありがたいことだ。しかし、赤水が私にもたらしてくれる学恩は、これだけではない。赤水が書き残した記述を対する赤水の強い思いや真摯な態度が

伝わってくる時がある。「この世の中はどのようにして成り立っているのか?」この問いへの答えを見つげるため、赤水は強い思いを持って、日々、真摯に学び、探究を続けた。学問に対する強い思いを持ち、日々、真摯に学び、探究すること。私はこれらのことも、赤水から、しっかりと学び取らなくてはならないと思っている。また、その一方で、赤水が書いた文章を読んでいると、そこにユーモアに満ちた面白味を感じることがある。そのような時、私は赤水という人間が持つ魅力に強く惹き込まれている自分があることに気づかされる。

て川をさかのぼる不思議な光「龍燈」を見ようと、いわき市の関ヶ原井嶽(標高605m)に登ります。夜に登って実際に見て、翌日の昼にも、「屋に登ったのは発生原理を探ろうとしたようです。その好奇心、学究心たるや相当なものです」

51歳の時には長崎行きのチャンスを得ます。近村の漁師がベトナムまで漂流し、水戸藩の役人と迎えに行くのです(自ら志願したという説もあります)。

鎖国時代でも、江戸幕府は長崎でオランダや清(中国)と交易していました。赤水さんの好奇心がむずむずします。外国人との交流

は「違法」を承知で、清国人と漢詩作りで腕比べ、オランダ人とも親しくなり、鳥の羽のペンで書いた横書きの文を初めて見るのです。うーん、世界は広い! 赤水さん、地図作りに向けて、力こぶがいっそう大きくなるのです。(フリーライター・岡村青) 原則木曜の掲載です

6 ブレーク!

JR高萩駅前に、2012年11月に建てられた長久保赤水(1717~1801)の銅像があり、駅前のランドマークとして乗降客に親しまれています。そこで聞いてみました、赤水さんて何者、と。

「江戸時代中期の儒学者で、日本地図をつくったといわれる人なんです」

板倉青哉さん(16)の答えは明快。それぐらい赤水さんは人々にすっかり定着しています。なので、「そのような人が高萩にいたことは誇りです」と及川賢信さん(15)がやや自慢げに答えるのも当然です。

じっさい赤水さんは農民出身ながら学者に転じ、緯線と方角線の入った日本地図を初めて刊行するという大事業を成し遂げ、一気にブレークする人でした。

数え52歳に達した赤水さん、まず「改製日本分里図」を完成させます。

「この地図がいわゆる赤



JR高萩駅前の長久保赤水像。手前は赤水が作製した「改正日本輿地路程全図」(2版)の陶板

大ベストセラーついに完成

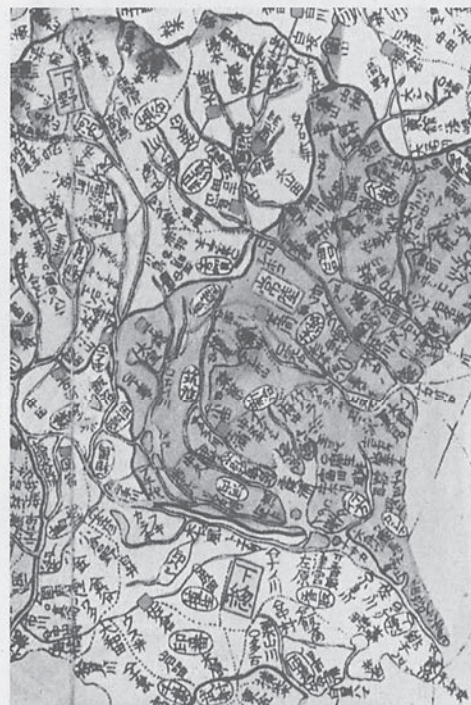
水図(改正日本輿地路程全図)の元になる原図です。この後、修正を加えてより信頼性の高いものになってゆくんですが、この原図の完成まで実に約20年も費やしているんですわえ」

長久保赤水頭取(3代目)会長の佐川春久さん(70)は高萩市に感慨深く語りま

す。1枚だけの手書きの原図が現存することによって、白色顔料を塗り重ね、和紙を貼り合わせて修正した跡が見取れます。

赤水さんはこの頃、功績が認められて水戸藩の郷士格に列せられます。でも地図作りはこれから本番。原図は端緒にすぎません。

1774(安永3)年、58歳の赤水さんは意を決して京都に向かいました。京都には約6千。航路、古戦場、都は文化と知識の宝庫。多



「改正日本輿地路程全図」(2版)の常陸国部分。地名がびっしり=高萩市歴史民俗資料館蔵

彩な人士、文物に接し、そこで得た情報を原図に盛り込み、修正を重ねます。そして5年。ついに「改正日本輿地路程全図」が出版されるのです。赤水さん63歳、地図作りに取りかか

かしてから約30年。当時としては最も信頼性が高く、あの伊能忠敬(1745~1818)が全国を測量して作製した地図より42年も前のことでした。彫り師が版木を彫り、彩色されて翌年、大坂で刊行されま

す。ところが、これで止まらないのが赤水さん。75歳で第2版を完成させます。これがまた、すごい。「初版に書かれた地名は約4200ですが、2版では約6千。航路、古戦場、都は文化と知識の宝庫。多

か、阿蘇山や浅間山には噴煙も描き込まれました」「それどころか、瀬戸内海の周防灘には「不知火が現れる」、新潟のところに「天然ガスが出るのが不思議」などと書いています。赤水が旅して見聞きしたことも盛り込んで、これは彼の知識の集大成です」

一気に語る佐川さん、興奮するのも分かります。赤水図は海賊版や模倣版が次々と出るほどの大ベストセラーになるのです。ところで、赤水さんは61歳で第6代水戸藩主・徳川治保の侍講(家庭教師)に

按撫されています。高萩駅前の銅像はその姿、農民から藩主の先生になるって、いやはやなんとも……。(フリーライター・岡村書)

原原則木曜の掲載です

赤水の手紙

孫の作之丞【藤八郎の長男】、次男・四郎次、三男・大塚文右衛門へ： 續長久保赤水書簡集現代語訳から抜粋)

んではいけない。(略) とにかく、人を知ること(略) 天下の中で正直で律儀の人、親孝行で忠義と真実を守る人を子弟の如くに付き合うように。世の中の人の中に、不義不孝で、酒、女色、博奕の三悪を好み、家業をおろそかにする者は悪人である。悪人は天下の罪人であり、そのような人を早く見究めて交わらず遠去けるようにせよ。他人は勿論、親族であっても油断しないこと。但し、甚だしくこれを憎むと仇で返すこともあるので、強くその非を責めるべきではない。(略) 悪人を見てもそれを鏡として、自らを戒めて行いを正しくし、酒、女色・博奕を好まず、家業にだけ精進して、少しでも余力がある時には、書物を読み、古の人を友とすること。世の中にこれほどの楽しみはない。これを天命を樂しむという。

7外伝

赤水さん 地図に広がるいきいき人生

海外の赤水図を調査した馬場章さん。現在はeスポーツの普及に取り組む馬場さん提供



地名をびっしりと書き込み、微に入り、細にわたる「改正日本輿地路程全図」(通称・赤水図)を世に送り出した長久保赤水さん(1717~1801)。さらに進化した第2版が1791(寛政3)年正月に刊行されると、またもや人気に火が付き、どこにも止まりません。版元も売り出しに懸命です。「浦々島々に至る迄大小もろさず地勢方位を正し微細に記ス」とキャッチコピーをつけ、購買心をあおるありさま。「確認しただけでも赤水図は黒一色から7色刷りまでバリエーション豊かなんです。色が多ければ高く、最高は25両。でも色が少ないのは安く、欲しい人に欲しい値段で買えたいです」元東京大大学院教授の馬場章さん(62)が語ります。ベストセラーの陰にマーケティング戦略があるのは、現代と同じですね。

海外に「流出」黒船ペリーも愛用?

「思い出ししてください。赤水図は持ち運びに便利なのよ?」

馬場さんは、鎖国時代に長崎に滞在したドイツ人医師シーボルトが、日本で収集した「シーボルト・コレクション」の研究者。25年前にミュンヘンの博物館で、なんと赤水図に出会ったのです。部屋が薄暗かったからか、色鮮やかな赤水図がぐくぐくと輝いて見えたといいます。「なぜ赤水図がここに?」シーボルトは日本でさまざまな文物を集めました。が、帰国準備のさなか、積み荷に幕府禁制の地図が含まれていることが発見され、国外追放になります。この地図が伊能忠敬の通称・伊能図なんですね。なぜ伊能図は見つかり、赤水図は持ち出せたのでしょうか?

馬場さんはこの時の感動がきっかけで赤水図研究にのめり込みます。ドイツ、米国、カナダ、英国、オランダ、ロシア、フランスなどで次々と赤水図を見つけ出すのです。「米国は議会図書館、ロシアは海軍が厳重保管していました。日本人は赤水図の陸路情報を活用しました。が、諸外国にとっては海岸線や港の情報が貴重だったのです。黒船で浦賀にきた



米利幹(全米海軍水師提督代理肖像年々八歳)



ペリーの肖像画(原史料) 亀山市歴史博物館蔵
シーボルトの肖像画 © Brandenstein-Zeppelin Family Archives

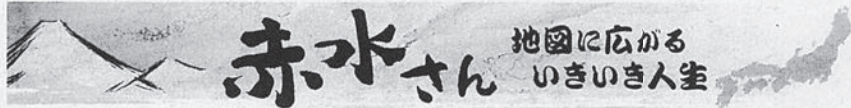
折り返み式だったでしょう。だから役人の目をすり抜けたんだと思うんです。で、私が調べたところ、同館には3点も赤水図が所蔵されていたんですね」同館で赤水図を見たいと申し出た日本人は馬場さんが初めて。赤水図にとってもおそらく百数十年ぶりの日本人との再会です。馬場さんはこの時の感動がきっかけで赤水図研究にのめり込みます。ドイツ、米国、カナダ、英国、オランダ、ロシア、フランスなどで次々と赤水図を見つけ出すのです。こんな大学者が200年以上も前に茨城にいたとは実にあっぱれ。むしろこれは彼の没後の評価。生前の赤水さんは世評などに無頓着。彼の夢は日本を飛び出し、世界地図作りにはばたきます。(フリーライター・岡村青) 原則木曜の掲載です

いばらき春秋

2020.9.6 幕末の思想家、吉田松陰が東北遊学の折、高秋市を訪れ長久保赤水を墓参した。懐中には当時の旅必携の日本地図「赤水図」があった▼伊能忠敬は幕府の命令で実測による日本地図を作製したが、「(約40年前に)赤水は居ながらにして地図を作った」と、資料や天文学、旅人の話から正確な地図を描いた先駆者に驚嘆した▼江戸中期、同市赤浜の農家に生まれた赤水は、地理学者や儒学者として活躍し、水戸藩6代藩主治保に学問を教える侍講に抜擢された。当代随一の知識人として名をほせ、赤水図は誰もが知るベストセラーだった▼時は流れ、忠敬が教科書やテレビ、小説で「初めて日本地図を作った人」と紹介されると、「赤水の業績は陰に隠れ見えなくなってしまう」と長久保赤水顕彰会長の佐川春久さん▼市や顕彰会の地道な活動が実って、赤水の関係資料693点が国指定の重要文化財に決まり、再び脚光を浴びている。同市歴史民俗資料館では現在、特別展が開かれ、地図や書簡、絵画など約50点が展示されている▼中でも赤水直筆の原図(縦84.6センチ、横134.8センチ)は修正を重ねた跡が生々しく残り、正確な地図を追求した赤水の情熱が伝わってくる。(山)

入場無料、11月15日まで。(山)

8 隠居は御免



江戸時代の大ベストセラーとなる日本地図（通称・赤水図）を世に送り出した長久保赤水さん（1717～1801）は常陸国赤浜村（現高萩市赤浜）の農民出身ながら勉学に励み、数え61歳で6代水戸藩主・徳川治保の侍講（家庭教師）に大抜擢されたことは前々週（第6回）で少しご紹介しましたね。赤水さんは江戸に呼ばれ、81歳までの約20年を小石川の水戸藩邸内の儒者長屋で暮らします。



赤水が作製した「地球万国山海輿地全図」
 高萩市歴史民俗資料館蔵

還暦過ぎ 息子に「菊の塩漬け送れ！」

明3（1642）年には「大清広輿図」（いまの中国の地図）、その後「地球万国山海輿地全図」（世界地図）と立て続けに完成させる、旺盛な執筆っぷり。あくなき知的探求とチャレンジ精神には脱帽ものです。

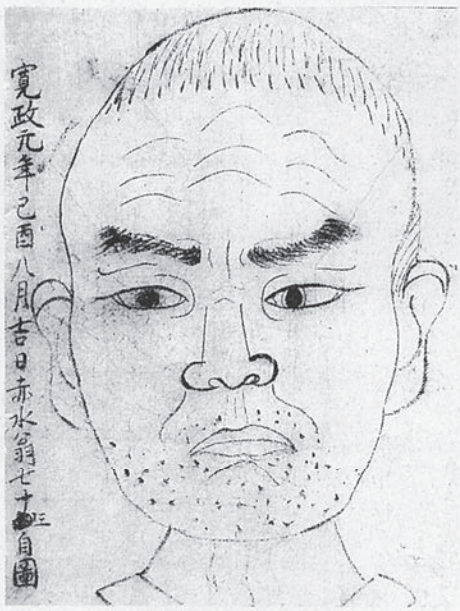
ところが、赤浜村で暮らす長男の藤八郎、次男の四郎次ら子どもたちは父の健康が心配。何しろ還暦を過ぎていきますからね。「おきゆうを200カ所した」とか「病氣も快復した」などの手紙がとどくとのおさら。

「隠居格になったのを機に赤浜に戻っては」と気遣うのも当然です。しかし、赤水さんは70歳の時、水戸藩の歴史書「大日本史」の「地理志」の執筆

筆を治保から任されるんですね。大日本史といえば黄門さまでおなじみの2代藩主・徳川光圀が始めた大事業。意気に感じないはずがありません。

その後またたびたび、子どもたちから手紙が来たのでしよう。赤水さんはついにこう書くのです。

「私は（もう）75歳になったのだから、お前たちの意見などに従う必要はない。（隠居を願っていることも）余計なことである」さらに「菊の塩漬けが足りない」「梅干しの黒焼きを送れ」などと、手紙をさかんに送ります。「（仕事するの）眼の力の業になるので欲しいのである」その頃の自画像が残って



73歳の赤水の自画像

高萩市歴史民俗資料館蔵

います。「黒くて太いマユ、獅子っ鼻」。これで73歳かと思わせるほど、インパクトがありますね」長久保陸さん（29）
 北茨城市はこう語ります。

自画像は陸さんの祖父智保さんが所有していました。が、昨年に他界され、高萩市に寄贈されます。智保さんや陸さんは四郎次の子孫にあたります。

「自画像は額に入れて茶の間の壁にずっとかけてありました。祖父の話では、赤水さんは地図を作るためいろいろなところへ旅に出たというんですね。そのせいか、なるほど風格があるなと思って見ていました」赤水さんは81歳でなお、こう書き送ります。

「私が命を惜しむのは『地理志』完成のためだけだ。お殿様の仰せを守り、ご恩に報いるにはただこの地理志にある。それなのに お前たちは私の気持ちも知らず、（地理志よりも赤浜に戻ってきて欲しいというのは）親不孝である」

自画像の赤水さんは口をへんの字に結び、無精ひげ。執念、恐るべし、です。

フリーライター・岡村青
 原則木曜の掲載です

PR映像や地図複製 赤水の業績顕彰事業

高萩市、国重文指定受け

高萩市出身の学者で、日本で初めて経緯線のある全国地図を完成させた長久保赤水（1717～1801年）の関係資料が国の重要文化財に指定されることに伴い、同市は顕彰事業に着手する。

赤水の業績と合わせて、市の観光地や特産品をPRする映像コンテンツと、地図のレプリカを作成。新型コロナウイルス感染症収束後の観光振興や交流人口拡大を図る狙いだ。市は、顕彰事業の経費1833万円を含む本年度補正予算案を9月の市議会定例会に提出する。

赤水さん 地図に広がる いきいき人生

9 大往生

「殿様から命じられた大日本史の『地理志』を完成させるまでは、絶対に赤浜に帰らん」

1797（寛政9）年、数え81歳の長久保赤水さんは目の薬になるからと菊をたべ、体にいいからとアワビの腸の塩辛をたべて地理志編纂に執念を燃やしました。が、衰えは隠せません。その年の夏、健康を案じる息子たちの説得にとつとう応じます。

6代水戸藩主・徳川治保の侍講（家庭教師）として江戸に発ったのは81歳でした。実には約20年ぶりに久しく忘れていた故郷・赤浜海岸（高秋市赤浜）の潮風が、赤水さんをホッとさせたことでしょうか。

赤浜に戻った赤水さんは、どんな暮らしをしていたのでしょうか。

「戻ってからも研究に余念がなかったようです。ところが江戸後期の18020年代に家が火事になり、赤水の晩年の資料や江戸から持ち帰ったものが灰になってしまったんです」。厳格な残念がるのは長久保和良さん（88）。和良さんは赤水さんの長男藤八郎の次男です。彼が遺言を書いたのは、赤浜に戻った81歳の年跡にお住まいです（※旧宅跡には藤八郎の三男の子孫の方もお住まいです。長男の松太郎は早世）。

火事がなければ赤水さんの晩年を知ることができたのに、実に惜しい。

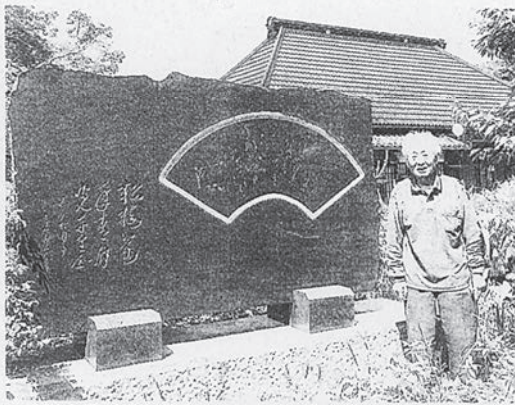
けれど火事は彼の没後のこと。赤水さんは1801（享和元）年7月23日、85歳で大往生します。「（葬式は）儉約質素にせよ、棺はあり合わせの板でよい、

（自分が身にとつ）襦は紙でもよい」。厳格な赤水さんは自らの葬式についても遺言で指示しています。彼が遺言を書いたのは、赤浜に戻った81歳の年の暮れです。既に決意の帰郷だったのでしょうか。

実は赤水さんが亡くなった日、また香華が絶えない8月3日、偶然にも伊能忠敬（1745～1818）が日本地図作製のため、測量隊を率いて赤浜を通過しています。彼はごまめに日記をつけていますが、「長赤水ノ出村也」とサラッと書いてます。忠敬だって赤水さんが測量せずして作製した日

9代水戸藩主・徳川斉昭の肖像画

巨星墜つ 斉昭も松陰もしのぶ



徳川斉昭が長久保赤水の子孫に贈った「扇の和歌」を刻んだ碑と、長久保和良さん＝高秋市赤浜

徳川斉昭が長久保赤水の子孫に贈った「扇の和歌」を刻んだ碑と、長久保和良さん＝高秋市赤浜

和良さんの自宅の一角に立つ石碑には、その和歌が刻まれています。3人も藩主が訪れるなど、いかに赤水さんが惜しまれた人であったかが分かりますよね。

幕末の思想家吉田松陰（1830～59）も赤水さんが亡くなって約50年後、

（自分が身にとつ）襦は紙でもよい」。厳格な赤水さんは自らの葬式についても遺言で指示しています。彼が遺言を書いたのは、赤浜に戻った81歳の年の暮れです。既に決意の帰郷だったのでしょうか。

実は赤水さんが亡くなった日、また香華が絶えない8月3日、偶然にも伊能忠敬（1745～1818）が日本地図作製のため、測量隊を率いて赤浜を通過しています。彼はごまめに日記をつけていますが、「長赤水ノ出村也」とサラッと書いてます。忠敬だって赤水さんが測量せずして作製した日

本地図（通称・赤水図）の評判は当然知っていますから、内心、「ワシも……」とライバル心を燃やしたに違いありません。

没後も赤水さんの名前は衰えません。6代治保は赤水さんの生前に自宅を訪れていますが、彼の没後も7代治紀、9代斉昭が訪れています。とくに斉昭は自ら筆を執り、扇に一首、「山川をはるばるこえて今日ここに 手綱の浜のたすねてぞくる」との和歌を子孫に贈ったほどでした（8代は赤水宅が火災に遭ったため、訪問を控えたとか）。



測量する伊能忠敬の銅像＝北海道福島町豊浜

令和2年9月30日に長久保赤水関係資料が国の重要文化財に指定されました。

東北旅行の途中で赤水さんの墓に詣でています。忠敬も松陰も、赤水図を使っていたといえます。まさに巨星墜つ、だったのです。次は最終回。（フリーライター・岡村青）

＝原則木曜の掲載です



会場には、赤水図第2版を3倍に拡大して印刷した地図が展示してある＝高秋市高秋

赤水さんの生涯に触れよう

重文指定記念 高秋で展示

江戸時代の儒学者で「日本地図の先駆者」、長久保赤水（1717～1801）の特別展が、高秋市高秋の市歴史民俗資料館で開催されている。地図や書物、絵書類約50点が展示されている。入場無料で、11月15日まで。

赤水の関係資料693点が3月、国の文化審議会の答申で「重要文化財指定が適当」とされ、間もなく正式に指定される見通しのため、重要文化財指定記念として開催されている。

高秋市赤浜の農家に生まれた赤水は晩年、水戸徳川家6代藩主治保の侍講となり、地理学、天文学、農政学など多岐にわたる分野で成果を残した。代表作「改正日本輿地路程全図」（赤水

図）は、伊能忠敬が実測して作製した日本地図「大日本沿海輿地全図」より42年前に完成された。

今回、赤水図の初版と第2版を展示。初版の約10年後に刊行された第2版は、国内各地の地名や河川が大幅に増え、航路なども細かく記されている。長久保赤水顕彰会の三浦邦明理事は「第2版は情報量が全然違う。米などを運ぶための海運、物流の関係でも使われていたようだ」と話す。

自画像や書簡、家訓、年貢取り立てに関する上呈の文書など公私にわたる資料も並ぶ。市生涯学習課の田中達仁主幹は「生き方や人間性にも触れ、地図以外の功績も紹介している。多くの人に知ってほしい」と話している。（小松剛則）

赤水さん 地図に広がる いきいき人生

10 また会う日まで

常陸国赤浜村（現高萩市赤浜）の農民出身で幼い頃から勉学に励み、伊能忠敬より42年も早く日本地図（通称・赤水図）を完成させ、水戸藩主の侍講（家庭教師）も務め、水戸藩の歴史書「大日本史」の「地理志」編纂も任された長久保赤水さん（1717～1801）。地理学者であり、儒学者であり、農政学者でもあり、赤水図は江戸時代の大ベストセラーとなつて、忠敬自身や、幕末の思想家吉田松陰が重宝し、黒船艦隊のペリも使つたふしがあるほどでした。

でも、あまり知られていなかったんです。

「伊能忠敬が『実測による日本地図』を日本で初めて成し遂げた人」として教科書に載り、すっかり陰にかくれてしまつたんですね。」

長久保赤水顕彰会の3代目会長、佐川春久さん（70）は高萩市IIが説明します。佐川さんは東京・築地生まれ。高萩市役所に勤めて初めて、赤水さんを知るのでした。「大変な驚きですよ。伊能忠敬の比じゃないんじゃないかって」

国重文へ！ 大河も夢じゃない？

顕彰会は1992年に発足。佐川さんも市の広報広聴係で培ったPRのノウハウを駆使して知名度アップに奮闘してきました。赤水図のレプリカ作製、絵本や伝記漫画、赤水の書簡集の発刊、講演会やイベントの

開催、実行委員会に加わつての銅像建立……。そんな顕彰会の皆さんのもとに今年3月19日、うれしい知らせが届きます。赤水図をはじめとする資料693点が、国の重要文化財に指定されることが決まつたのです！

まさに悲願達成でした。赤水さんの伝記漫画を描いた黒沢貴子さん（53）も喜んだ一人です。黒沢さんの描く赤水さんは、とても可愛らしいのが特徴。

おいつさんが生まれたんですって。「その可愛さにつられ、赤水さんも可愛くなっちゃいました」

推しながら「うも思つたそつですよ。私、子育てを間違つたかも」。赤水の継母おかんは、赤水さんのしたいことをやらせました。「私は娘に、あれしなさい、これしなさいと先回りして言つちやうて。自主性に任せればよかつたかなって」

いまは、マルチ人間の赤水さんの「頭の中」に迫る新作に挑戦中です。「難しいですけど、頑張ります」

一方、佐川さんも次なる秘策を明かします。

「そつですよ、NHKの大河ドラマを狙います。赤水さんを教科書にも載せたいし、赤水記念館の設置も今後の課題です」

佐川さんの本領、ますます発揮です。黒沢さんの漫画も、今から楽しみ。それにしても赤水さん、21世紀になつても私たちに夢や憧れを与えてくれます。

やっぱり希代のエンターテイナーですよ、赤水さん

フリーライター・岡村青

II おわり

開催、実行委員会に加わつての銅像建立……。そんな顕彰会の皆さんのもとに今年3月19日、うれしい知らせが届きます。赤水図をはじめとする資料693点が、国の重要文化財に指定されることが決まつたのです！

まさに悲願達成でした。赤水さんの伝記漫画を描いた黒沢貴子さん（53）も喜んだ一人です。黒沢さんの描く赤水さんは、とても可愛らしいのが特徴。

おいつさんが生まれたんですって。「その可愛さにつられ、赤水さんも可愛くなっちゃいました」

推しながら「うも思つたそつですよ。私、子育てを間違つたかも」。赤水の継母おかんは、赤水さんのしたいことをやらせました。「私は娘に、あれしなさい、これしなさいと先回りして言つちやうて。自主性に任せればよかつたかなって」

いまは、マルチ人間の赤水さんの「頭の中」に迫る新作に挑戦中です。「難しいんですけど、頑張ります」

一方、佐川さんも次なる秘策を明かします。

「そつですよ、NHKの大河ドラマを狙います。赤水さんを教科書にも載せたいし、赤水記念館の設置も今後の課題です」

佐川さんの本領、ますます発揮です。黒沢さんの漫画も、今から楽しみ。それにしても赤水さん、21世紀になつても私たちに夢や憧れを与えてくれます。

やっぱり希代のエンターテイナーですよ、赤水さん

フリーライター・岡村青

II おわり

赤水の偉業、再認識を

高萩市歴史民俗資料館

8年の「改正日本分里図」たじが見て取れる。赤水が水戸藩代藩主徳川頼朝に「改正日本興地略全図」を提出し、年貢取り立ての用途で苦しんだ農民を救うため制度の改善を求めた書「農民伝言」の草稿もあり、赤水が正統も、赤水は民出身

高萩市出身の学者で、日本で初めて経緯線のある全国地図を完成させた長久保赤水（1717～1801年）の関係資料が国の重要文化財に指定されることを記念して特別展が、同市高萩市の歴史民俗資料館で開かれる。地図類のほか書物や絵画など約50点を展示し、郷土の先人である赤水の足跡を辿る「1人」が中心

特別展は11月15日まで。月曜休館。9月23～30日は展示物の入れ替えのため臨時休館する。開館は10月31日までが午前9時半～午後5時50分、11月1～15日は午前9時半～午後5時。重要文化財の子孫宅には、赤水の複製の子孫宅に伝えた一括資料で、地図・絵図84点、文書・記録279点、典籍274点、書画・器物56点の計693点。赤水の学問の内容、交友関係、生涯の実績を考え、上でもっとも資料群で、江戸時代中後期の文化史、地図史などの研究上に学術的価値が高いと評価された。（小原瑠平）

重文記念展 地図類や書物、絵画も

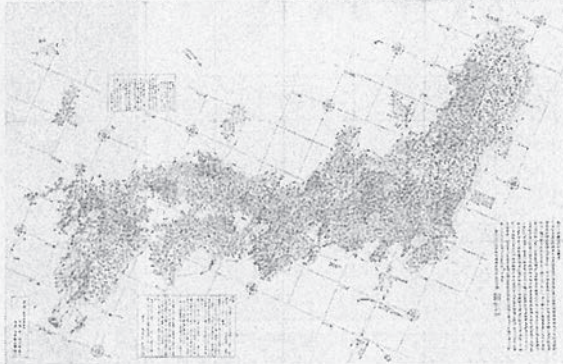
特別展

高萩市歴史民俗資料館

高萩市出身の学者で、日本で初めて経緯線のある全国地図を完成させた長久保赤水（1717～1801年）の関係資料が国の重要文化財に指定されることを記念して特別展が、同市高萩市の歴史民俗資料館で開かれる。地図類のほか書物や絵画など約50点を展示し、郷土の先人である赤水の足跡を辿る「1人」が中心

特別展は11月15日まで。月曜休館。9月23～30日は展示物の入れ替えのため臨時休館する。開館は10月31日までが午前9時半～午後5時50分、11月1～15日は午前9時半～午後5時。重要文化財の子孫宅には、赤水の複製の子孫宅に伝えた一括資料で、地図・絵図84点、文書・記録279点、典籍274点、書画・器物56点の計693点。赤水の学問の内容、交友関係、生涯の実績を考え、上でもっとも資料群で、江戸時代中後期の文化史、地図史などの研究上に学術的価値が高いと評価された。（小原瑠平）

江戸時代の地理学者、長久保赤水の「改正日本輿地路程全図」
(高萩市教育委員会提供)



茨城県高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水(1717-1801)年)が近年、知名度を上げています。初めて実測で日本地図を作った伊能忠敬より42年早く、情報収集による精度の高い「赤水図」を作り、庶民や後世の知識人に広めた功績が評価され始めた。

赤水は高萩市赤浜の農家生まれで、水戸藩の学者らの下で儒学や地理学を学んだ。30代半ばで正確な日本地図を作ろうと決意し、情報収集や各地の旅を経て、52歳で

注目度高まる 長久保赤水

江戸時代、日本地図研究の先駆者

1802年に完成した伊能忠敬の地図は、伊能自らが実際に各地を歩き歩幅で測量したことで有名。一方で赤水は、自分で集めた地名などの情報を地図に盛り込んだため、内陸の情報も豊富だ。長久保赤水顕彰会の佐川春久会長(70)は「友人が多く、旅人にもお茶をこちそうして話を聞くなど、情報収集能力にたけていた」と強調する。赤水の関連資料693点は、2017年に県指定有形文化財になるなど徐々に価値を評価され、国の文化審議会は今年3月、出身地の茨城

絵本出版や顕彰の動き

高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水(1717-1801年)の関連資料計693点が国の重要文化財に指定されることになった。指定されるのは日本で初めて経緯線のある全国地図を完成させた赤水の資料群で、国の文化審議会が文科相に指定するよう答申。夏ごろまでに答申通り指定される見通しだ。県民にとって新たな誇りとなる。

長久保赤水顕彰会が長年にわたって埋もれていた資料の収集・整理や赤水の功績を伝える活動を続け、その活動を市も支援。市職員時代から顕彰会の活動を主導し、重文指定という悲願を達成した佐

赤水資料の重文指定

論説

先人の偉業に学びたい

川春久会長は「非常にありがたいことで、ようやく第一歩が踏み出した」と喜びを語る。今後は教科書への掲載や大河ドラマ化を目指す。

重文に指定されるのは、赤水の川春久会長は「非常にありがたいことで、ようやく第一歩が踏み出した」と喜びを語る。今後は教科書への掲載や大河ドラマ化を目指す。

赤水が天文学の知識を取り入れて1779年に完成させた日本地図「改正日本輿地路程全図(赤水図)」は江戸時代の庶民の生活を支え、広く愛用された。伊能忠敬が作成した「大日本沿海輿地全図」縮図で、10里(約40*)が1寸(約3*)。大きさは縦84・6*、横128・8*。国境や関所、城下町、名所など10種類の記号が使われている。35歳ごろから地図を学び始めた赤水は先人による地図や

地誌、官製の国絵図など多くの史料を基に編集。自身の実体験や多くの旅人、知人からの話も参考に20年以上の歳月をかけて完成させた。初めて経緯線を用い、方が正確に分かり、天文学の知識を取り入れたことも画期的とされる。

顕彰会は2012年にJ-R高萩駅前広場に赤水の銅像と赤水図の陶板を建立。赤水の旧宅を活用して、市と調整しながら「赤水記念館」として改修する構想もある。観光など地域活性化にも生かしていきたい考えで、佐川会長は「地図を勉強している学生がたまたまいるので、高萩に来て見てもらいたい」と語る。重文指定をきっかけに学術的にも赤水の業績の全容が解明されることを期待している。

今回は「一橋徳川家関係資料」(県、県立歴史館保管)も国の重文指定となる見通しだ。赤水の功績とともにあらためて本県の歴史を学ぶ契機としたい。

松陰重宝した「赤水図」

顕彰会 原寸大のレプリカ販売

高萩市出身で江戸時代の地
理学者、長久保赤水(171
7~1801年)の功績を伝
える長久保赤水顕彰会(佐川
春久会長)は、赤水が作った
地図の原寸大レプリカの販売



「赤水図」の原寸大レプリカをPRする長久保赤水顕彰会の佐川春久会長＝高萩市役所

を始めた。幕末の思想家、吉田松陰も赤水図を重宝したと考えられることから、松陰が東北での旅について書き記した「東北遊日記」の足跡を記載している。

レプリカは両面刷りで、表面には1791年に完成した「改正日本輿地路程全図(赤水図)」の第2版を写した。

松陰は1851年12月に江戸を出て翌年4月まで東北を遊歴しており、レプリカの地図上に松陰がたどった道程や宿泊地などを示した。

裏面には、赤水図の「原図」から第5版までの6図を掲載。細部を比べると、赤水が常に地図に改良を加えていっ

た変遷と努力がつかげえる。レプリカの大きさは縦84・6センチ、横128・8センチ。江戸時代と同じデザインののし袋に入れて販売する。価格は千円(税抜き)。東北遊日記や赤水図について解説する冊子も同封される。

佐川会長は「松陰も持って歩いた赤水図の果たした役割は、知られているより大きい。100年の間ベストセラーだった地図の移り変わりを見てもらえれば」と話している。

郵便番号と住所、名前、必要部数を記した上で、同顕彰会ホームページの問い合わせ欄から申し込むか、佐川会長 ☎090(1846)6849、メールアドレス sasarawa@yahoo.co.jp まで。(小原瑛平)

地域総合



◇身近な情報をお寄せください

<茨城新聞ホームページ>
<http://ibarakinews.jp>